

# I. 病院指標

## 1. 年齢階級別退院患者数

<対象期間: 2023/04/01~2024/03/31>

\* 患者数が10件未満の場合は-(ハイフン)で表示し、各項目は公開していません。

年齢区分	0 ~	10 ~	20 ~	30 ~	40 ~	50 ~	60 ~	70 ~	80 ~	90 ~
患者数	-	40	41	181	413	692	988	1572	559	28

### 【解説】

一般病棟に入院された年齢階級別の退院患者数を示しています。

がんは、40歳以降から徐々に増加し、50歳代で500人を超え、70歳代が1500人を超えています。

## 2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位）

<対象期間: 2023/04/01～2024/03/31>

\* 診療科別に患者数の多いDPC14桁分類について、DPCコード、名称、患者数、自院の平均在院日数、全国の平均在院日数、転院率、平均年齢について集計しています。

\* 患者数が10件未満の場合は-(ハイフン)で表示し、各項目は公開していません。

### ○消化器内科(診療科コード500)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	57	7.00	7.61	0.00	70.21
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	25	4.08	2.61	0.00	72.04
060010xx04xx0x	食道の悪性腫瘍(頸部を含む。)内視鏡的食道粘膜切除術等 定義副傷病なし	17	5.00	8.63	0.00	70.29
060035xx04xxxx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	15	4.93	6.45	0.00	70.13
060040xx05xxxx	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	11	5.00	6.38	0.00	70.73

#### 【解説】

消化器内科は、食道、胃、大腸(結腸・直腸)と多くの部位で積極的に内視鏡的治療を行っています。各疾患ごとの治療スケジュールが決まっており、それに沿った入退院管理を行っています。患者さんにとって負担の少ない低侵襲な治療を目指しております。

### ○消化器外科(診療科コード510)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
06007xxx97x0xx	膵臓、脾臓の腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2なし	58	9.67	11.65	1.72	68.81
060035xx010x0x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 定義副傷病なし	52	10.81	15.12	1.92	70.21
060020xx02xxxx	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等	51	17.57	18.01	0.00	71.00
060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。) その他の手術あり 手術・処置等2なし	32	6.63	10.24	0.00	73.09
060040xx0200xx	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍 肛門悪性腫瘍手術 切除等 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	30	10.73	14.80	0.00	66.60

#### 【解説】

消化器外科は、肝胆膵外科、食道胃外科、大腸骨盤外科の3グループからなり、食道、胃、大腸(結腸・直腸)、膵臓、肝臓、胆嚢、胆管と幅広いがん治療を行っています。

手術は、患者さんに侵襲の少ない腹腔鏡下手術を多く行っています。食道がん・胃がん・結腸がん・直腸がん・膵臓がん治療はロボット支援下でも手術を行っています。

また、大腸がん(結腸・直腸)手術は、全国の平均在院日数と比べて、4～5日短い入院期間となっています。

## ○呼吸器内科(診療科コード340)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等12あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	55	4.15	2.98	0.00	70.60
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 定義副傷病なし	51	9.53	8.33	0.00	72.10
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	32	13.53	13.59	3.13	71.53
040040xx99041x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 定義副傷病あり	20	13.85	13.90	0.00	70.50
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2なし	11	21.45	18.65	9.09	71.00

### 【解説】

呼吸器内科は、経気管肺生検法(TBLB)やCTガイド下肺生検等で診断を行い、入院化学療法を多く行っています。また、化学療法によって生じる薬剤性間質性肺炎に対する治療も行っています。

## ○呼吸器外科(診療科コード160)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	106	10.61	9.89	0.94	69.57
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等12あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	27	2.52	2.98	0.00	67.63
040040xx99041x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 定義副傷病あり	11	19.55	13.90	0.00	66.27
040040xx99060x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等26あり 定義副傷病なし	-	-	13.89	-	-
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	-	-	13.59	-	-

### 【解説】

呼吸器外科は、超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法(EBUS-TBNA)やCTガイド下肺生検等で診断を行っています。手術では、原発性肺癌や転移性肺癌に対して胸腔鏡下手術を多く行っています。さらに、ロボット支援下でも手術を行っています。また、術前化学療法や術後化学療法も行っています。

## ○泌尿器科(診療科コード310)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1あり	215	2.04	2.44	0.00	71.07
110080xx01xxxx	前立腺の悪性腫瘍 前立腺悪性腫瘍手術等	100	10.42	11.19	0.00	70.47
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等2なし	86	5.95	6.85	0.00	75.98
110070xx99x0xx	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等2なし	21	3.48	9.69	0.00	78.29
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等22あり 定義副傷病なし	19	11.42	9.06	0.00	74.74

### 【解説】

泌尿器科は、腎がん・腎盂がん、尿管がん、前立腺がん、膀胱がんと幅広いがん治療を行っています。  
 検査では、多くの前立腺生検を行っています。  
 治療では、前立腺がん治療は、多くの症例が低侵襲であるロボット支援下で手術を行っています。  
 膀胱がんの治療は、内視鏡手術が多く、入院化学療法も行っていきます。

## ○婦人科(診療科コード330)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等2なし	91	8.04	10.10	0.00	54.10
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等24あり 定義副傷病なし	79	4.13	4.18	0.00	63.41
12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腔部)切除術等 手術・処置等2なし	75	3.07	2.96	0.00	39.64
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術(腔式を含む。) 腹腔鏡によるもの等	40	6.13	6.00	0.00	41.05
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	39	6.44	5.93	0.00	45.08

### 【解説】

婦人科は、子宮頸がん・子宮体がんや子宮・卵巣の良性腫瘍に対して傷が小さくてすむ腹腔鏡下手術を積極的に行っています。ロボット支援下でも手術を行っています。  
 また、子宮体がん・卵巣がんでは、レジメンによりますが、入院化学療法を行っています。

## ○乳腺外科(診療科コード111)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等1なし	198	7.35	9.88	0.00	58.98
090010xx02xxxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの)	98	4.36	5.64	1.02	57.04
090010xx99x40x	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等24あり 定義副傷病なし	25	4.60	3.51	0.00	60.24
090010xx99x80x	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等28あり 定義副傷病なし	18	3.11	3.55	0.00	62.94
090010xx99x0xx	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2なし	16	7.31	9.69	0.00	58.56

### 【解説】

乳腺外科は、乳がんに対して手術治療を多く行っています。化学療法については、術前・術後の初回導入治療をはじめとして、入院で行っています。

がんの性質や病期、全身の状態、年齢、併存病の有無などを考慮したうえで、化学療法またはホルモン療法を行い、腫瘍縮小後に手術を行っています。

## ○骨軟部腫瘍・整形外科(診療科コード121)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
070010xx010xxx	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く。)四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等1なし	49	4.16	5.14	0.00	51.78
070041xx99x3xx	軟部の悪性腫瘍(脊髄を除く。)手術なし 手術・処置等23あり	45	6.36	8.58	0.00	46.67
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	28	4.14	5.77	0.00	41.54
070041xx01x00x	軟部の悪性腫瘍(脊髄を除く。)四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	24	9.71	16.72	0.00	64.29
080007xx97xxxx	皮膚の良性新生物 その他の手術あり	21	4.43	5.64	4.76	58.33

### 【解説】

骨軟部腫瘍・整形外科は、良性・悪性の軟部腫瘍、骨腫瘍に対して積極的に手術を行っています。

また、軟部悪性腫瘍・骨悪性腫瘍に対して入院化学療法も行っています。

全国の平均在院日数と比較して、短い入院期間となっています。

## ○形成外科(診療科コード130)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
070520xx97xxxx	リンパ節、リンパ管の疾患 手術あり	26	8.23	8.23	0.00	65.35
090010xx97x0xx	乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2なし	-	-	6.59	-	-
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等1なし	-	-	12.88	-	-
090010xx05xxxx	乳房の悪性腫瘍 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	-	-	7.47	-	-
090010xx03xxxx	乳房の悪性腫瘍 動脈(皮)弁及び筋(皮)弁を用いた乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの	-	-	15.43	-	-

### 【解説】

形成外科は、四肢のリンパ浮腫に対して手術を行っています。リンパ浮腫は、婦人科系の悪性疾患や乳がんの手術時にリンパ節が切除され、それによってリンパ管の機能低下が生じて発症します。リンパ浮腫に合併する蜂巣炎の治療も行っています。

また、乳がん術後の乳房再建術を自家組織や人工乳房を用いて行っています。

## ○血液内科(診療科コード480)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
130030xx97x50x	非ホジキンリンパ腫 手術あり 手術・処置等25あり 定義副傷病なし	49	24.63	29.83	0.00	73.20
130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等24あり	29	16.45	9.62	0.00	72.24
130030xx99x0xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2なし	29	4.28	9.08	3.45	76.28
130030xx97x40x	非ホジキンリンパ腫 手術あり 手術・処置等24あり 定義副傷病なし	17	20.59	23.00	0.00	75.00
130030xx99x6xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等26あり	15	20.40	13.10	0.00	74.47

### 【解説】

血液内科は、造血器悪性腫瘍の中でも非ホジキンリンパ腫である「びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫」が疾患の多くを占め、入院化学療法を行っています。

また、化学療法を行うために必要なカテーテルを血管内に留置します。

## ○放射線治療科(診療科コード271)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
100020xx99x2xx	甲状腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等22あり	35	3.86	5.83	0.00	57.06
		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-

### 【解説】

放射線治療科は、甲状腺がんの甲状腺全摘後の補助療法や再発・遠隔病変に対する放射線ヨウ素-131内用療法を入院にて行っています。全国の平均在院日数より、2日短い入院期間となっています。

その他の放射線治療に関しては、外来通院で多くの症例を行っています。

## ○頭頸部腫瘍・耳鼻咽喉科(診療科コード241)

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除(頸部外側区域郭清を伴わないもの)等 手術・処置等1なし	21	8.62	7.94	0.00	52.29
03001xxx99x60x	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等26あり 定義副傷病なし	13	3.62	7.38	0.00	68.85
03001xxx0210xx	頭頸部悪性腫瘍 頸部悪性腫瘍手術等 手術・処置等1あり 手術・処置等2なし	10	41.40	27.10	0.00	65.40
03001xxx99x0xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2なし	-	-	12.58	-	-
03001xxx0200xx	頭頸部悪性腫瘍 頸部悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	-	-	12.84	-	-

### 【解説】

頭頸部腫瘍・耳鼻咽喉科では、頭頸部がん(口腔・舌がん、鼻・副鼻腔がん、咽頭がん、喉頭がん)の希少がんに対して、手術・化学療法・放射線療法を駆使した集学的治療を行っています。

また、甲状腺がんに対しては手術を行っています。

### 3. 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

<対象期間: 2023/04/01~2024/03/31>

\* 患者数が10件未満の場合は-(ハイフン)で表示し、各項目は公開していません。

5大癌	初発					再発	病期分類基準 (※)	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	92	11	24	29	-	24	1	8
大腸癌	36	19	69	91	19	78	1	8
乳癌	155	123	29	12	-	34	1	8
肺癌	76	21	55	108	10	138	1	8
肝癌	15	19	-	-	-	57	1	8

※ 1:UICC TNM分類 2:癌取り扱い規約

#### 【解説】

5大癌(胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌)の病期(ステージ)別、初発患者数を示します。  
病期(ステージ)が上がるにつれて癌が進行していることを示しています。

また、「再発」は当センターで初発と診断されその後再発した患者さんと、他院で初発と診断され再発のため当センターを受診した患者さんを合わせた数となっています。

#### 4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

<対象期間: 2023/04/01~2024/03/31>

\* 患者数が10件未満の場合は-(ハイフン)で表示し、各項目は公開していません。

重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	15	19.93	74.93
重症	-	-	-
超重症	-	-	-
不明	-	-	-

##### 【解説】

当センターはがん専門病院のため、肺炎で入院される患者さんは限られています。がん治療中に肺炎を発症することがあり、患者数は多くありませんが、入院治療を行っています。

## 5. 脳梗塞の患者数

<対象期間: 2023/04/01~2024/03/31>

\* 患者数が10件未満の場合は-(ハイフン)で表示し、各項目は公開していません。

ICD10	発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率	転院患者数
I63\$	3日以内と その他	-	-	-	-	-

### 【解説】

当センターはがん専門病院のため、脳梗塞で入院される患者さんは限られています。

## 6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位）

<対象期間: 2023/04/01～2024/03/31>

- \* 診療科別に手術件数の多い順に5術式について、患者数、術前日数、術後日数、転院率、平均年齢を集計しています。
- \* 患者数が10件未満の場合は-(ハイフン)で表示し、各項目は公開していません。

### 外科

#### ○消化器外科(診療科コード510)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 頭頸部その他に設置した場合	79	3.57	6.32	0.00	68.80
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	60	3.32	8.33	0.00	70.42
K655-23	腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	29	2.72	12.62	0.00	68.97
K740-22	腹腔鏡下直腸切除・切断術 低位前方切除術	23	3.00	10.09	0.00	70.22
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	22	1.59	6.09	0.00	70.23

#### 【解説】

消化器外科は、肝胆膵外科、食道胃外科、大腸骨盤外科の3グループからなります。食道がんは、胸部操作と腹部操作を鏡視下手術で行う低侵襲食道手術を行っています。また、ロボット支援下食道手術も行っています。大腸がん(結腸がん・直腸がん)は、腹腔鏡下・ロボット支援下にて手術を行っています。大腸がんの中で直腸がん手術では、吻合部の安静・保護、縫合不全予防の目的に人工肛門を造設する場合があります。その後、術後の状態に応じて、人工肛門閉鎖を行っています。また、化学療法や疼痛の制御を行うために必要なカテーテルを血管内に留置する手術も行っています。

#### ○呼吸器外科(診療科コード160)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	45	1.96	7.42	2.22	71.36
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 部分切除	24	2.54	5.54	0.00	65.13
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 区域切除	21	2.57	8.29	0.00	70.14
K5143	肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	11	2.27	7.73	0.00	71.73
K5132	胸腔鏡下肺切除術 部分切除	-	-	-	-	-

#### 【解説】

呼吸器外科は、症例の多くが胸腔鏡下での手術で、中でも標準的な手術である肺葉切除術を多く行っています。また、ロボット支援下肺切除術も行っています。早期がんや肺機能が悪い場合では、できるだけ正常の肺を残す部分切除や区域切除を行っています。

## ○泌尿器科(診療科コード310)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K843-4	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	100	2.10	7.32	0.00	70.47
K80360	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	87	1.00	3.89	0.00	75.76
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	61	1.03	1.66	0.00	67.38
K775	経皮的腎(腎盂)瘻造設術	10	0.50	14.00	0.00	75.10
K773-2	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	-	-	-	-	-

### 【解説】

泌尿器科は、前立腺がんでは、患者さんの生活の質を可及的に落とさないことに留意し、低侵襲であるロボット支援下前立腺全摘除術を多く行っています。

膀胱がんでは、早期では内視鏡手術が中心となり、局所進行がんでは、標準治療である膀胱全摘尿路変更術を行っています。

また、尿管周囲の多臓器腫瘍による尿管・尿管口閉塞に対して、経尿道的尿管ステント留置術または、経皮的腎瘻造設術を行っています。

## ○婦人科(診療科コード330)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K867	子宮頸部(腔部)切除術	73	0.99	1.04	0.00	39.36
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	68	1.00	4.31	0.00	48.82
K877	子宮全摘術	47	1.96	6.19	0.00	49.70
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術(両側) 腹腔鏡によるもの	43	1.12	4.00	0.00	41.14
K879	子宮悪性腫瘍手術	30	1.97	9.00	0.00	58.37

### 【解説】

婦人科は、悪性腫瘍(子宮体がんや子宮頸がん)、良性腫瘍(子宮筋腫や卵巣のう腫等)に対して腹腔鏡下手術を多く行っています。中でも、子宮体がんに対しては、ロボット支援下手術を行っています。

子宮頸がんでは、初期がん(上皮内がん)では妊娠機能を温存した子宮頸部円錐切除術を行っています。卵巣がんでは、開腹手術が中心となっています。

## ○乳腺外科(診療科コード111)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K4763	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術(腋窩部郭清を伴わないもの)	144	1.04	4.49	0.00	60.49
K4762	乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの)	98	1.13	2.22	1.02	57.04
K4765	乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施しないもの	50	1.00	7.60	0.00	54.46
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 頭頸部その他に設置した場合	13	0.69	1.38	0.00	53.92
K4742	乳腺腫瘍摘出術 長径5cm以上	-	-	-	-	-

### 【解説】

乳腺外科は、多くの症例で腋窩部郭清を伴わない乳房切除・部分切除術を行っています。  
 乳房全切除術はがんの大きさや広がりにより全乳房の切除が必要な方や、遺伝的素因などで全乳房の切除が必要な方などに行っています。  
 乳房部分切除術は腫瘍から約1.0cmの正常組織をつけて切除を行っています。

## ○骨軟部腫瘍・整形外科(診療科コード121)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹	67	1.00	2.34	1.49	55.01
K0311	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術 肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹	29	1.21	9.10	3.45	64.17
K0523	骨腫瘍切除術 鎖骨、膝蓋骨、手、足、指(手、足)その他	12	1.00	2.17	0.00	43.42
K0302	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 手、足	11	1.00	2.27	0.00	50.09
K0522	骨腫瘍切除術 前腕、下腿	11	1.00	2.55	0.00	27.55

### 【解説】

骨軟部腫瘍・整形外科は、良性・悪性の軟部腫瘍に対して手術を多く行っています。  
 軟部悪性腫瘍・骨悪性腫瘍では、切除する範囲によって術後に機能障害が生じる可能性があるため、状況に応じた再建手術(植皮術や有茎皮弁術や遊離皮弁術、腫瘍用の人工関節置換術など)を行っています。  
 骨腫瘍では、良性・悪性(転移を含む)に対して手術を行っています。

## ○形成外科(診療科コード130)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K628	リンパ管吻合術	25	1.08	5.76	0.00	64.60
K0171	遊離皮弁術(顕微鏡下血管柄付きのもの) 乳房再建術の場合	-	-	-	-	-
K476-4	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	-	-	-	-	-
K476-32	動脈(皮)弁及び筋(皮)弁を用いた乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの	-	-	-	-	-
K476-2	陥没乳頭形成術、再建乳房乳頭形成術	-	-	-	-	-

### 【解説】

形成外科は、四肢の原発性リンパ浮腫や手術によるリンパ節切除後に生じるリンパ浮腫に対して、リンパ管吻合術を多く行っています。

また、乳がん術後の乳房再建術を自家組織や人工乳房を用いて行っています。

## ○頭頸部腫瘍・耳鼻咽喉科(診療科コード241)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 頭頸部その他に設置した場合	16	2.56	39.19	0.00	64.50
K4633	甲状腺悪性腫瘍手術 全摘及び亜全摘(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	-	-	-	-	-
K6261	リンパ節摘出術 長径3cm未満	-	-	-	-	-
K4634	甲状腺悪性腫瘍手術 全摘及び亜全摘(片側頸部外側区域郭清を伴うもの)	-	-	-	-	-
K395	喉頭、下咽頭悪性腫瘍手術(頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む。)	-	-	-	-	-

### 【解説】

頭頸部腫瘍・耳鼻咽喉科は、頭頸部がんでは、進行がんや再発がんに対して化学療法を行っています。そのために必要なカテーテルを、血管内に留置する手術を多く行っています。

甲状腺がんや喉頭がん・下咽頭がんに対しても手術を行っています。

## 内科

### ○消化器内科(診療科コード500)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術	54	1.00	5.02	0.00	70.41
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	25	1.04	2.92	0.00	70.28
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2cm未満	15	1.00	1.80	0.00	75.73
K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2cm以上	14	1.07	2.21	0.00	68.29
K526-22	内視鏡的食道粘膜切除術 早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術	12	1.00	3.00	0.00	71.17

#### 【解説】

消化器内科では、治療前日入院としています。食道がん、胃がん、大腸がん(結腸・直腸)に対して、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行っています。

大腸ポリープ手術では、外来前処置が困難な患者さんに対しては、入院治療を行っています。また、ポリープが大きい場合は、入院治療としています。

### ○血液内科(診療科コード480)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 頭頸部その他に設置した場合	61	1.56	21.43	0.00	73.61
K92120	造血幹細胞採取(一連につき) 末梢血幹細胞採取 自家移植の場合	-	-	-	-	-
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-
K384-2	深頸部膿瘍切開術	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-

#### 【解説】

血液内科は化学療法が中心となります。そのために必要なカテーテルを、血管内に留置する手術を多く行っています。

## ○腫瘍内科(診療科コード011)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 頭頸部その他に設置した場合	25	2.16	8.56	0.00	68.84
K651	内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	-	-	-	-	-
K689	経皮経肝胆管ステント挿入術	-	-	-	-	-
K691-2	経皮的肝膿瘍ドレナージ術	-	-	-	-	-
K6151	血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)止血術	-	-	-	-	-

### 【解説】

腫瘍内科は化学療法が中心となります。そのために必要なカテーテルを、血管内に留置する手術を多く行っています。

## 7. その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

<対象期間: 2023/04/01~2024/03/31>

\* 症例数が10件未満の場合は-(ハイフン)で表示し、各項目は公開していません。

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	-	-
		異なる	-	-
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	11	0.24
		異なる	-	-

### 【解説】

入院した時の疾患と入院後の最も治療した疾患が同じ場合、入院の契機が「同一」となります。

当センターは、がん専門病院であるため、播種性血管内凝固症候群や敗血症で入院することは少なく、この症状はがんの治療またはがんの進行により生じるものです。

また、手術・処置等の合併症としては、造影剤ショックや術後出血や手術創部感染・離開などがあります。

## II. 医療の質指標

<対象期間: 2023/04/01~2024/03/31>

### 1. リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数(分母)	分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数(分子)	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率
1030	847	82.23

### 2. 血液培養2セット実施率

血液培養オーダー日数(分母)	血液培養オーダーが1日に2件以上ある日数(分子)	血液培養2セット実施率
904	784	86.73

### 3. 広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数(分母)	分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数(分子)	広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率
375	281	74.93

2024年 9月30日 作成

2024年10月29日 更新